令和７年度【2025年度】

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	森下保育園
施設所在地	〒135-0004　江東区森下3丁目14番6号
法人名	江東区

１．活動のテーマ

＜テーマ＞

自然物の動き　「どこまで転がるか・どんな風に転がるか～動きの探求～」

＜テーマの設定理由＞

普段の遊びの中で、スロープを作ってトミカを走らせることを楽しんでいるこどもたち。
トミカだけでなく、「他のものも転がるかな？」と人形や積み木を転がしてみたり、園庭でスロープを作った時にはボールを転がしたりと遊びが発展していっているため、他にどんなものを転がすとさらに興味が深まっていくのか、自然物などを提供することで探究活動に繋げていきたいと考えた。

２．活動スケジュール

①慣れ親しんだクラス内で、スロープを作り様々な物を転がしてみよう。
②夏の遊びの中で水や氷などを転がしてみよう
③ホールの広い空間の中で慣れ親しんだ物を転がしてみよう
④転がす物に色をつけて道筋を辿ってみよう
⑤転がす物をカプセルに入れて物の動きを追ってみよう
⑥科学博物館で巨大ピタゴラ装置を体験する

３．活動のために準備した素材や道具、環境の設定

・こどもたちの言葉を聞き取り、興味関心が引き出せそうな物を多種類用意した。こどもたちの姿や様子から使用する物は足し引きしていった。
・活動を振り返ることができるように、導入で振り返りの時間をしっかりと取っていった。
・活動に集中できるよう、使用する道具の色合いや配置なども統一感のあるものを意識した。

４．探究活動の実践

＜活動の内容＞

①慣れ親しんだクラス内で自分たちでスロープを作り、いろいろなものを転がしてみる。
　また、転がった先での音の変化から物の動きを探ってみる。
②夏の遊びの中で氷や水などをスロープに流して自然物の動きを探求していく。
③ホールの広い空間の中でどのようにスロープを組み立てたら遠くまで転がっていくのか探求を深めていく。
④ホール一面に模造紙を敷き、転がす物に絵の具をつけて距離の違いや道筋を可視化することでより探求を深めていく。
⑤様々な物をカプセルに入れ転がし、転がる物の動きを追ってみる。
⑥科学博物館で巨大ピタゴラ装置を体験し、物の動きを体感する。

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり＞

①G毎で初めのスロープ作りや進め方が違かったが、友達の転がすものも意識しながら転がすことを楽しんでいた。「くるくるまわってる」「押してみたら転がった」など転がり方の違いや音の大小に気付いていた。
②上手く転がらないもの（氷や宝石玩具）は上から水を流してみていた。水と一緒に流し、「ウォータースライダーみたい」と自分の経験を思い出していた。
③同じ物(ふわふわボール)を同じ状況で転がしてみると、転がり方に変化があった。「同じものなのになんで違うんだろう」と疑問を言葉にしてその後も繰り返し試していた。
④転がった物を追いかけて、ボールがグルグル回ると体も一緒に回っていた。色をつけて転がすことでできた道筋や模様を発見し、楽しんでいた。転がしてできた跡を見て、ことばはなくても嬉しそうに担任保育士を見たり、友達の動きや道筋の面白さを共有していた。
⑤平らの地面で転がした時の様子と、坂道を転がした時の様子の変化(スピードや距離)に気付いていた。友達と一斉に転がして速さの違いを楽しんでいた。中に入れるものによっての転がり方、転がるときに出る音にも気づいていた。

５．振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

・最初の頃はこどもたちの探求する気持ちを大切にしたいと思って、声を掛けず見守っていったが、適切に声を掛けて良いということを知った。保育者が積極的に声を掛けていくことで、こどもたちのイメージが膨らみ探求心や興味を広げることができ、より一層探求活動が深まっていることに気づいた。
・一人ひとりが探求していることは違っても、友達と一緒に活動して、見たり聞いたりすることで共感しながら協同的・探求的学びが深まっていることを感じた。